



過去の努力を誇りに、新たなスタートへ

◆ 県大会、北信越大会を終えて

県大会、北信越大会おつかれさまでした。今年も各会場では熱戦が繰り広げられたことと思います。新聞等で皆さんの活躍や健闘ぶりを見て、嬉しさと頼もしさを感じました。3年間の全てをぶつけても、勝負には必ず勝者と敗者がいます。残念ながら敗れてしまったとしても、結果を潔く受け入れましょう。これまでの自分の取り組みや自身の成長、さらに仲間と育んだ絆に誇りを持ち、前へ進みましょう。

◆ On your mark !

さて、ここから受験シーズンの初戦「大学入学共通テスト試験（1/18・19）」まであと31週・215日です。全国の受験生にとって、この日数は同じです。班活動を通じて培った積み重ねの大切さと、勝負を決する1点の重みは、大学入試でも同じです。これからは勉強に対しても、もっともっと貪欲になって下さい。今後も北信越大会まで続く人もいますが、全体としてはこの県大会を区切りとするのが相応しいように感じます。ここに最終のスタートをコールして、本格的な受験生活へ突入することになります！



◆ Get set!!

受験準備のスタートにあたり、「しっかり切り替えられるかどうかポイント」だということは誰でも知っています。学年集団として、いかにして「勉強する雰囲気」を醸成することができるかどうかは、きわめて重要です。6/3からは、英語と理系理科の放課後進学補習が本格的に始まりました。また、7、8月には進研記述模試、全統共テ模試、全統記述模試と続きます。配布された「合格ライン」で志望校の目標点と合格者平均SS(偏差値)を確認しておこう。

さらに、自宅では部屋の掃除、模様替えなどをススメます。これまで、部屋の掃除も親任せだった人はいませんか？まずは自分の環境を自分自身で整理整頓し、場を清め、あなたの心を落ち着かせましょう。つぎに、学校のような公共の場ではこれまで以上に互いの気遣いを大切にすること。



◆ Go!!!

人間は環境と気分に左右されるものです。部屋を掃除したついでに、誘惑されやすい漫画やゲームを手の届かないところへ片付けよう。学習中はスマホをオフにして、できれば別の部屋へと遠ざけよう。

さあ、環境を整えて、気分を一新したら、新しいスタートを切ろう！
そうして、ゴールを目指して、一心不乱に走り続けよう！



→共通テストまで、あと31週215日。新たなスタート、受験への準備を始めよう！

「暁峰祭はもちろん大事。でも・・・」

さて、暁峰祭を前にした今、受験勉強のスタートをするのはなぜか？ それは暁峰祭を終えた時(7/3)は、共通テスト試験まで残り 200 日です。わずか 200 日で共通テストを仕上げることに「大丈夫」なんて気休めは、やはり無責任だと思のです。

しかし、これから校内が暁峰祭準備一色になって行くのも本校の常です。今年も開催することができ喜びを感じると同時に、伝統を受け継ぐ大切な学校行事でしょう。班活の引退を惜しみ「夏は終わらせない!」とばかりに、中庭でダンス練習が行われています。

ちなみに全国的には、高校の文化祭は当然、秋の開催が多数派です。芸術の秋やら文化の日やら、地域の文化行事と同じことです。そこで 3 年生はどうしているのか？ズバリ“お客さん!”です。文化祭は 2 年生までが基本らしいのです。さらに、ある県では「文化祭」は 3 年に一度とか、「体育祭」と「文化祭」を交互に行うところもあるそうです。しかし大学受験は全国区、どんな高校生活を送ろうが、受験生に課される入学試験は同じです。本校に来校する河合塾の担当者は毎年、「長野県の高校生は、部活と文化祭と受験と、3足のわらじを履いて大変ですなぁ。」って言います。

文化祭には大きな意義があり、みなさんを大きく成長させてくれることは確かです。今度は学習と特別活動(HR・生徒会)の両立に励むしかありません。学習に対する思い入れには強弱が混在する時期です。ムダな時間は減らして、気持ちよく作業するためのアドバイスは3つ。

①作業内容は明確にし ②開始・終了時刻を明示して ③それをみんなが守る!

(最後の暁峰祭、応援しています!)

放課後学習・休日登校のススメ

◆淡々と地道に机に向かう

しばらくは、大会の高揚感や、整理のつかない気持ちが繰り返される日々ですが、こんな時こそ、机に向かいましょう。まず、目の前の授業には集中すること、そしてその予習と復習を淡々と地道にこなすことです。学習という純粋な作業に集中することは、じつはとても楽しいことです。学習中にはスマホを OFF にすること。人間には、一人で内省する時間、孤独な時間も絶対に必要です。友人であればこそ、お互いに気遣う、そんな配慮の気持ちを持ってください。

◆班活動と同じだけ、学校で勉強しよう

さて「班活無くなったから家で勉強するぞ!」と張り切ってみても、なかなか集中できないものです。それは班活動を続けてきた諸君にとって、放課後や休日の登下校時刻と練習時間は、3年間かけて身体に染み付いたバイオリズムだからです。

そこで、今日からは登下校の時間はそのままに、学校で勉強しましょう! 班活動に振り向けてきた時間と情熱を、これからは自分の進路実現に振り向けよう! 本校の多くの先輩たちが学習室を利用して力を付けてきました。**今年度も長期休業を除くすべての土曜日には学習室が原則、開放されます。さらに平日は放課後 19 時まで、開放しています。**

自分の一日の計画を立てて、積極的に利用しましょう!

【学習室開放】 平日：19 時まで 土：8 時 30 分～17 時 00 分



- 従前の問題作成方針を引き続き重視しつつ、趣旨をより明確にし、新指導要領に対応。多様な受験者が十分に力を発揮できるよう問題の構成や分量等に配慮しながら、引き続き、**知識の質**や、**知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力**等を問う問題の工夫を重視する。
- 国語は、言語活動を重視し、多様な資質・能力を問うため**大問を1つ追加**。
試験時間は90分(10分増)。**配点は近代以降の文章110点、古典90点(古文45点、漢文45点)**。
- 地理歴史、公民は、必履修科目を組み合わせた出題科目1科目と、必履修科目と選択科目を組み合わせた出題科目5科目の**合計6つの出題科目**から最大2科目を選択解答。
- 数学②は『**数学Ⅱ、数学B、数学C**』の**1科目を出題**し、**試験時間は70分(10分増)**。
- 理科は、従前の2つの試験時間帯(理科①と理科②)から**1つの試験時間帯に変更**。
従前の「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の4科目は、『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』として1科目に統合。**5つの出題科目**から最大2科目を選択解答。
- 英語は「リーディング」「リスニング」形式を通して、
「聞く」「読む」「話す」「書く」を統合した言語活動を通して培った総合的な英語力を評価。
- **情報を出題教科に追加**。(試験時間は60分、配点は100点)
- 地理歴史、公民、数学、情報において旧教育課程履修者等への経過措置として、「**旧課程科目**」**を出題**。(新教育課程履修者は選択解答できない。)
- **得点調整の実施条件・方法を一部修正**。

令和7年度の大学入学共通テスト

本試験 令和7年1月18日(土)、19日(日)

追(再試験) 令和7年1月25日(土)、26日(日)

※コロナ対策による、2週間後の追試実施は解消

受験案内の配布は、9月2日(月)から、

出願期間は、9月25日(水)から10月7日(月)まで

1 日目	2 日目
地理歴史・公民 2科目受験 9:30～11:40 (130分) 1科目受験 10:40～11:40 (60分)	理科 2科目受験 9:30～11:40 (130分) 1科目受験 10:40～11:40 (60分)
国語 13:00～14:30 (90分)	数学① 13:00～14:10 (70分)
外国語 15:20～16:40 (80分)	数学② 15:00～16:10 (70分)
英語リスニング 17:20～18:20 (60分)	情報 17:00～18:00 (60分)



きりかえ—高校生活にみる logos—

今回のテーマは「きりかえ」。毎年この時期は多くの班活動が最後の舞台を終え、3年生は引退する。班活動から学習へ。そんなきりかえについて語ってみよう。

と言いながら、早速脱線する。まずはこのコーナーのタイトルにつけられた「ロゴス」という言葉について話をさせてほしい。ロゴス (logos) とはギリシア語で、言語・論理・理性・理法・法則・秩序などの意味を持つ。幅広い意味を持ちはあるが、そこに共通する概念を日本語で表せば「理 (ことわり)」と言えるだろう。心理学 (psychology) や生物学 (Biology) といった学問の英訳につく接尾辞 ~logy は logos を語源とするものであることから、logos が理 (ことわり) の概念を示すことに頷ける。

こう話をすると、このコーナーが日常から遠い話題を扱うコーナーと思われてしまうかもしれない。もちろん高尚な話題や学術的なトピックを取り上げることも役割の一つだ。一方で普通の高校生活が logos そのものと深く関係しているからこそ、このコーナーなのである。それは教科の学習で学問 (~logy) についても学んでいるということももちろんある。しかし、それだけではない。

班

活動での取り組みを思い出してほしい。スポーツにしる、芸術にしる、「どう体を使えばもっと良いプレーができるか」「どんな戦略を駆使すれば、相手より有利にたてるか」「どんな手法を用いればもっとよい表現ができるか」「どんな仕掛けをすれば強い印象を与えられるか」などといった課題をもって活動に励んだはずだ。これらの課題は、目指すものこそ異なるが、その根底には、いずれも「理 (ことわり)」を追い求める姿勢が隠されている。当然班活動に限った話ではない。好きだからやるものも、楽しみながらやっているものでも、「しくみを理解しようとして、どうすれば上手くいくか考える」ような取り組みならなんでも、logos と通じる。

では、教科 (学問) と班活動などは、それぞれ異なる logos を持つのか。実はそうではない。教科も班活も logos は logos だ。手法や具体的な対象こそ違うものの、どちらにも言語や論理を用いて、より高いものを目指す姿勢があったはずだ。君たちは班活動などで、どうすれば上手くいくかについて、理屈で考え、誰かにより正確に伝えるために言葉を選んできた。言語や論理を駆使する力こそ、教科や探究だけでなく、日常生活において、みなが知らず知らずに鍛えている力と言っていいのだ。

学

さて、ようやく冒頭の本題にもどる。「班活動などを終えて、学習にきりかえる」とは、なにも、今までと異なる活動をやるように意識をかえることではない。班活動などで、身につけてきた力や姿勢を、きっちり学習に活かすことに他ならない。終わりが見え始めると、中には、班活ばかりやっていないで、もっと勉強すればよかったと、後悔の念をもつ人もいるかもしれない。だが今悔やんでも時は戻せない。であれば、班活動などの経験に後ろめたい視線を向けるのではなく、その経験の上に立ち、その経験を活かしきり、あなたがつけてきた力 (logos) のすべてで自分の進路実現に挑んでほしい。「きりかえ」とは、まさにその覚悟を持つことなのだ。

